



「Sulang」はパラオ語で「ありがとう」という意味です。（私が置かせていただいている環境に感謝を込めて）

パラオに来て5カ月が過ぎました。今回はパラオでの初めてのクリスマスと正月の紹介をしたいと思います。パラオは常夏で、当然雪は降りません。雪が無く、寒くも無いので、クリスマスも正月も違和感。日本で過ごしていて当たり前だったのですが、季節とイベントが連動していたんだなとしみじみと感じます。暑い中でも街のホテルはちゃんとクリスマスモード→→→



## ○パラオのクリスマス

今、私はパラオのガッパン州にあるイボバンという地域に住んでいます。パラオの中でも小さい集落で、人口200人程度と言われています。パラオでは、ほとんどの方がキリスト教徒で、クリスマスはどの場所でも盛大にお祝いされます。12/25は祝日になっていて、学校も職場も基本的にお休みになります。私が住むイボバンはパラオの中でも特殊な村で、1920年頃に興ったモデクゲイ教という宗教の教徒が集まる村でもあります。学校名がベラウ・モデクゲイ・スクールですが、モデクゲイ教や村と関わりを持つ学校でもあります。キリスト教徒は毎週日曜日に集会があったりしますが、モデクゲイ教は毎週集まるという習慣はありません。しかし、村には教会があり、月に1、2回のペースで大きな集会があります。集会の時には生徒も集会の準備を手伝います。集会では豚肉や鶏肉、ウミガメの肉や魚、タロイモやココナッツに果物、ジュース等たくさんのお供え物をします。特に豚肉は生きた豚の命をいただいて、さばいてココナッツの葉で包んで、大きな鍋で一晩かけて煮込みます。集会の準備は前日の朝から始まって、徹夜で行われます。準備は村の人も含めてゆっくりと行われて、合間に会話を楽しんでいます。そして、朝を迎えて、お祈りをして、供えられたものを食べて終了します。

生きた豚の命をいただくところから見ていただいたのは忘れられない経験になりました。地域に根付いた宗教行事にお手伝いから参加させていただいて、日本の地域コミュニティから消えていっているようなパラオの地域の方々が集まる活動や人々のコミュニケーションを見て、我々日本人が忘れてはいけないものにも触れさせていただけたと思っています。



## ○パラオの正月

パラオのお正月は街ではカウントダウンイベントはあるものの、日本のような伝統的な形式を取りません。お寺で鐘を突くことも無ければ、初詣也没有ありません。おせちのような特別な料理を食べることもありません。年末年始で休日として設定されているのは1月1日のみで、年末年始は普通に働くようです。当たり前ですが、国が変われば慣習も異なるのですねー。